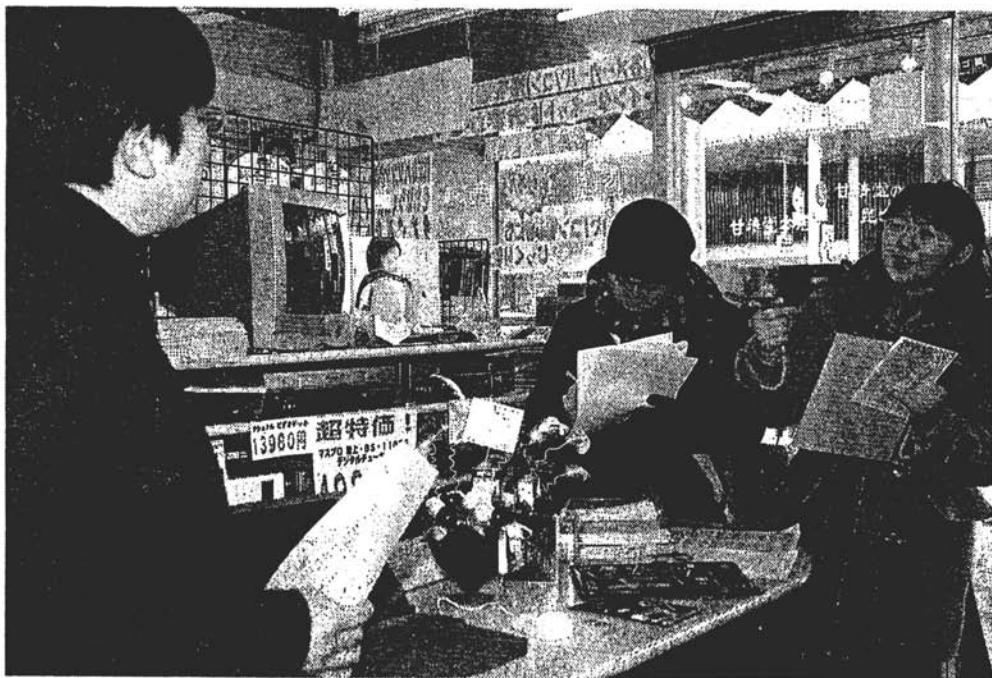


商店街の魅力は？課題は？

青森

本県を担う青年の育成を目的に「青い森未来を創る青年塾」が十一、十二の両日、青森市で開かれた。県内各地から集まった二十四人の若者が新町商店街でフィールドワークを行い、まちづくりについて考えた。



青年塾 若者の目線で観察

青年塾は、県とこれまでの参加者らで組織する実行委員会（委員長・石橋修青大社会学部助教）が主催。三回目の本年度は、県南、津軽地方から大学生、地方公務員、会社員ら、職種を超えた二十四人が参加した。

研修では、まちづくりをテーマにワークショップを実施。講師の大久保正弘さん（シテイズネット教育推進ネット代表）の講義を受けた後、参加者は五グループに分かれて新町を探索。商店主にインタビューしたり、買い物客、生活者などさまざまな目線で街を観察し、商店街の魅力、課題などを見つけ出した。調査結果を基に、より

青森市新町の電器店でインタビューする青年塾の参加者

よいまちの在り方について話し合い、「夢図（構想図）」を作成。二日目の十二日、新町商店街振興組合の関係者を招き発表した。三年連続で同塾に参加した五所川原市の介護福祉士長尾昇子さん（左）は「ふだん会えない多くの職種の人と知り合えて、ネットワークができてるのが楽しい」と話していた。

新町は新まちからまちね...
新南社に一言いってまちね...